

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	札幌市立山鼻南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	61	78	69	63	74	68	0	413	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導のための指導法・指導体制の工夫改善
児童の学力の評価を生かした指導の改善

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年～国語(入学前の文字の理解に個人差があるので、TTで個に応じたきめ細かい文字指導を行う)
1年・2年～算数(習熟の違いによって差が出やすいので、「数と計算」領域をTTで、個に応じたきめ細かい指導を行う)
1年・2年～生活(児童一人一人の興味関心や課題に応じた指導を行う)
3年から6年～算数(習熟の違いによって差が出やすいので、「数と計算」「量と測定」領域について少人数指導を行う)
3年から6年～総合(児童一人一人の追究対象や追究過程、及び興味関心や課題に応じた指導を行う)

(2) 年次計画

平成14年度

テーマ
・個に応じた指導のための指導法，指導体制の工夫改善
研究の見通し(仮説)
・子供の学びに合わせた指導を行うことで学習への意欲を喚起し，学ぶ楽しさを実感させると共に学力の向上を図ることができる
研究の内容・方法
・習熟に差が出やすいと考えられる，算数の「数と計算」「量と測定」領域において授業実践する
・子供が自ら選択できるコースの分け方の検討(学年全体を3～4つに分ける)
・各コース毎の指導法の充実を図る
・子供の力を把握する，また，子供自身が自分の力を知ることができる事前テストの在り方の検討
・学年研究または，全校研究を通して成果と課題を明らかにしながら，全校で少人数指導に取り組み，授業改善を図る
・単元における評価規準の在り方を探る

平成15年度

テーマ
・個に応じた指導のための指導法，指導体制の工夫改善
・児童の学力の評価を生かした指導の改善
研究の見通し
・算数で身に付けさせたい力を明らかにしながら，子供の実態をより確かに把握し，子供の学びに合わせた指導を行うことで，学力の向上を図ることができる
研究の内容・方法
・算数の「数と計算」「量と測定」領域の，14年度実施単元の検証と，未実施単元の実践を進めカリキュラムに位置付ける
・学年毎に，算数で身に付けさせたい力，習熟に差が出やすい内容を明らかにする。
・各コース毎の指導法の改善
・子供の見取りに生きる評価規準の設定
・子供の学習の成果を見取る方法を具体化し，記録化することで次の学習に生かしていく
・学年研究や全校研究を通して，成果と課題を明らかにしながら，日常実践を

積み重ね、授業改善を加える

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none">・個に応じた指導のための指導法，指導体制の工夫改善・児童の学力の評価を生かした指導の改善 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none">・子供の見取りを生かした授業構成とカリキュラムを作成し，子供の学びに合わせた指導を行うことで，学力の向上を図ることができる <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">・算数科における少人数学習のカリキュラム作成・児童の見取りに生きる評価規準の検証・少人数指導を実施する単元の指導計画のさらなる検証・実践の日常化とさらなる検証・実践研究の公開（授業公開，研究集録）
--------	---

(3) 研究推進体制

- ・少人数，TT，フロンティア計画特別委員会
（教頭・教務主任・少人数加配教諭・研究部員・各学年1名）
研究部と連携をとりながら推進する

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・昨年度と今年度の2年生から6年生までの算数科学力検査の結果を集計したものを比較してみると，評定1，2の子供の割合が減り，評定3，4，5の子供の割合が増えた。これは，本校で行っている習熟度別少人数学習の一つの成果であると考えられる。子供の理解に合わせてコース別に学習を進めていくことによって，子供の学習内容に対する理解度が上がっているのではないかと考えられる。引き続きデータをとり，様子を見ていきたい。
- ・子供の習熟度別少人数学習についての感想を見てみると，「多い人数で学習するより少ない人数で学習した方がわかりやすい」「自分にあったコースを選んで学習していくことができるのでよい」「意見を言いやすい」など，昨年度とほぼ同じような感想を持っていた。この学習方法が単に目新しいということでは子供が興味を示したのではなく，子供の学びに合った学習方法で，結果として学習意欲を高めることに結びついたのだと考えられる。
- ・2年継続して全校で習熟度別の少人数学習を行ったことで，この学習形態が子供に定着した。また，学校教育説明会でこの学習について保護者に説明したり，参観日で習熟度別少人数学習を公開したりすることで，保護者の理解を得ることができた。保護者からは，「つまりは，早く取り除くという意味で，その子にあった学習を進めていただくのはとてもよいこと」「少ない人数で，先生によく見ていただけるのは有り難い」などの感想をいただいた。習熟度別少人数学習が本校の教育の特徴の一つとして，認められつつある。

2. 今後の課題

- ・単元の初めに子供に学習コースを選択させているが，単元の学習途中でコースを変更することができるように，単元構成に工夫を加える。
- ・子供の学習の様子に関しての情報を交流し，評価に結びつけていくために，学習ノートに工夫，改善を加え，活用していくようにする。
- ・事前テスト，補充問題，発展的な学習，評価問題の開発を進める。
- ・各コースにあった指導法の工夫改善を進める。

学力等把握のための学校としての取組

- ・学力調査の実施（年1回）
- ・児童の学習ノートをファイル化して，児童一人一人の記入内容の広がりや変容から，学習理解の様子を見取る。
- ・事前，事後テストの結果を比較する。
- ・各学年の研究授業を通して，子供の学習の様子を見取り，学習状況について意見を交流する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・札幌地区学力向上推進協議会
日時：平成15年9月18日(木)13時30～
場所：札幌市立真栄小学校
対象：札幌地区学力向上推進協議会委員
目的：フロンティアスクール研究計画を発表
- ・札幌市教育研究協議会小学校算数研究部「秋の研究集会」
日時：平成15年10月21日(火)13時00～
場所：札幌市立山鼻南小学校
対象：市内小学校教諭(約80名参加)
目的：公開授業・研究協議
- ・学校教育説明会
日時：平成15年11月18日(火)
場所：札幌市立山鼻南小学校
対象：本校保護者
目的：フロンティア事業と実践の概要を保護者に説明する
- ・フロンティアスクール指定校研究会
日時：平成15年11月26日(水)10時～
場所：深川市立深川小学校
目的：指定校研究会に参加し、研究の成果を交流する
- ・研究実践発表会
日時：平成16年11月12日(金)13時00～
場所：札幌市立山鼻南小学校
対象：全道教員
目的：授業公開・研究発表・協議
- ・他校の反響
*本校の研究集録を送ってほしいとの問い合わせがいくつかあり、昨年度の研究集録を送付した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
13～18学級 19～24学級
25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭
体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無